

▲▲▲ 2020新春山行 嵩山(タケヤマ)山行 ▲▲▲

古林 宏

◎ 期日：2020年 1月9日

◎ 山名：嵩山(タケヤマ)：標高 789m 群馬県、中之条町の名峰、霊山

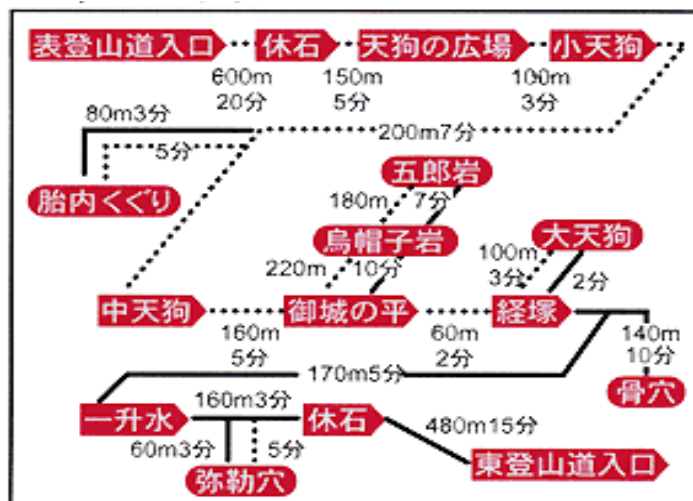
◎ パーティ：アカ(CL), イノ, オー, サイ(サチ), サイ(ミツ), サカ, ツカ(SL), ニシ, フル(報告) 9名

前日が雪模様の天気だったので積雪がなければと案じながら、念のために雪山用に底の厚い靴を履いて出掛けることにした。集合はJR吾妻線高崎発の長野原行電車に乗って朝の8時53分、下車駅は中之条駅だ。朝が早いので朝食も取らないで家を飛び出した。大宮の駅構内でお握りを食べて新幹線に乗り換え、吾妻線に乗って何とか中之条に辿り着いた。

メンバーは当初10名のところ、朝の電話でカワさんが電車に乗り遅れたとのことで9名になった。楽しみにしていた頂上での甘酒が飲めなくなり、持ってきたマグカップも余計なお荷物となってしまった。駅に着くと予想に反して雪は全く無く、カラカラに乾いて晴天の霹靂。軽い靴で来ればよかったのになあと・・・。そこからの登山口まで1時間くらいはズッと登り調子の距離だったが、幸いそこをタクシーで行くことになったので良かった〜と。

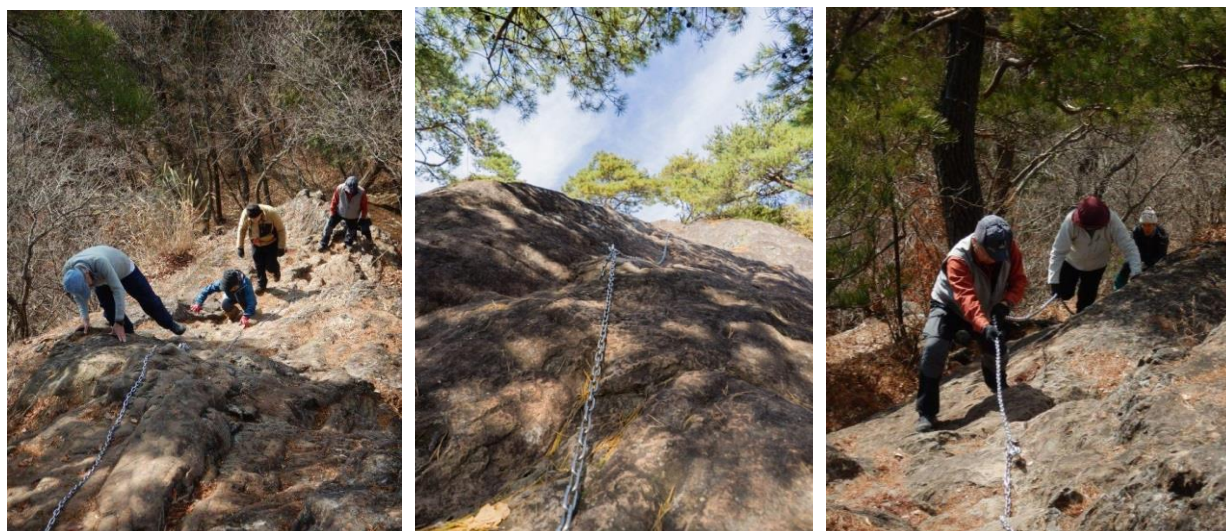
平均年齢70台半ばが中心のメンバーのために比較的低山を選んでくれたアカさんだが、のっけからの急登が始まった。10時15分に表登山道の急な坂道を息せき切って登っていき、展望台に登りついた。さらに進むと天狗の広場という尾根道にある広場に出て、そこから尾根歩きになって直ぐに岩峰の「小天狗」に着いた。





小天狗の岩上には小さな祠が見える。さらにその祠越しに中天狗と大天狗が見えた。11時15分には、あずまや（東屋）に戻って、そこから中天狗経由大天狗へと稜線を辿る。その辺りには嘗てお城があったらしい、途中には観音像があったり、いろんな顔形の石仏がコの字型に並んでいたりして霊山といつか信仰の山、歴史の山を感じさせる。

そのあとが岩尾根だ、ここが嵩山登山の本番と云う事らしい。本格的な鎖場があって、鎖が延々と上に向かって長く伸びている。足だけで登る訳にはゆかない、手で手繰って間隔をとって独りずつ順番に、余り近づくと鎖が左右にブレて危ないので鎖を手繰りながら登ってゆく。自分は重い靴を履いていたので登り難い。結果的には手で鎖を引っ張りながら登って行くことになった。家に帰ってからの話だが脚ではなくて、腕と肩の筋肉が張っていた。



最後に大岩を鎖でよじ登ると大天狗の頂上で、周りに山がなくて360度の見晴しが効く。実に爽快だ。榛名山や、中之条盆地の遠くに白根、四阿山、浅間、さらには上信越の一角が一望できた。

資料によると、嵩山は霊山として歴史上の遺跡も多らしく「天狗の棲む山」とも謂われ、神々の縁起が語り継がれた信仰の山であり、また室町期には関東武者の長尾氏が居城として、戦国時代には真田

幸村に攻められて岩櫃城主 斉藤氏 一族が激戦の末に大天狗の岩から飛び込んで自決して落城したとのことでした。そんな聖山とか霊山に泥靴を履いて攀じ登る違和感を抱きながら、歴史的な重みを踏みしめて新年最初の登山を会のメンバーと共に出来たことを嬉しく思ったところです。

東登山道を降り続けると道の駅の駐車場が下に見えて、すぐに東登山道の入り口の鳥居があるところを通過して無事下山。親都（ちかと）神社にお参りをして、すぐに蕎麦屋そば処「けやき」でミニ新年会。皆んなで新しい年のスタート登山を無事に終えたことに祝杯を挙げました。ところで、この土地は小淵恵三 元首相の地元だそうです。名所旧跡ですね。



<コースタイム>

表登山道発 10:15 → 10:50 小天狗あずまや 11:15

→ 11:30 大天狗経塚あずまや（昼食）12:25 → 12:50 東登山口下山

→ 親都（ちかと）神社参拝後、→ 道の駅「たけやま」内「そば処けやき」にてミニ新年会